

第1回検討会後に委員からいただいた意見等

○ 林委員（高知県）より

検討会の中で、指導者の育成が足りていないという意見が多く挙がっていたと思います。それについて、若手の立場からどうあるべきか考えてみました。

まさに指導者不足はその通りで、高知県では20代の若手が多く、2年目・3年目から独り立ちが当たり前になっています。もちろん、2年目から十分な（総合防除を含めた）栽培指導を行うことは不可能です。

そんな中、高知県では普及所・農協・生産者が互いに協力しながら栽培暦を作ったり、技術を磨こうとしている中で若手も一緒に学んでいると思います。そして、スマホやPCを使うような新しい技術は若手の方が習得が早く、反対に生産者に教えることもあるようです。

今後は若手普及員の増加や、そもそも人材不足で指導者が減ることが予想されるので、地域ぐるみの繋がり、学び合う体制作りが最も重要なのではないかと思います。ぜひ、ガイダンスでは地域の仕組み作り（地域版の防除暦作成など）について言及していただきたいです。

○ 大野委員より

「予防」という用語の位置づけ、取り扱いが重要と考えます。委員の皆様の中でも、微妙にとらえ方が異なるように感じました。

<第1回検討会資料について>

- ・「病虫害が発生しにくい栽培環境の整備」について、「病虫害が発生しにくい環境作り」の方が良いのではないかな。
- ・「土着天敵の保護・活用」について、「土着天敵の保護・強化」とすべきではないかな。

<その他ご意見>

- ・総合防除の考え方に基づく病虫害・雑草防除を行うことのメリットを、農業者にどのように理解・受け取ってもらうか、手法が大切。
- ・雑草防除については、非常に難しい問題と考える。病虫害の発生源というネガティブな側面のみで新しい総合防除を展開させるのは危険ではないだろうか。
- ・経済的被害許容水準（EIL）そのもの、あるいは要防除密度自体が生産現場での取組みが難しいことは世界的に広く指摘されている。
- ・判断に基づく農薬の使用は、「予防」ではないと考えるが、病虫害の発生に関わらず行うものは「予防」と整理しても良いのではないかなとの清水委員意見に同意。
- ・防除要否のタイミングの判断について、前作までの病虫害等の発生状況も勘案されるとの長坂委員からの発言に同意。